

イチジク株枯病抵抗性台木 「励広台1号」の育成



広島県立総合技術研究所 農業技術センター 軸丸祥大

課題

株枯病



イチジク栽培で全国的に広がる土壤病害

課題

株枯病



イチジク栽培で全国的に広がる土壤病害

既存の対策では解決不可能

対 策

効 果

- ◆ 改植……………なし
- ◆ 農薬……………限定的
- ◆ 既存の抵抗性台木……………小
(セレストなど)

枯死した罹病樹

既存の対策では解決不可能

対 策

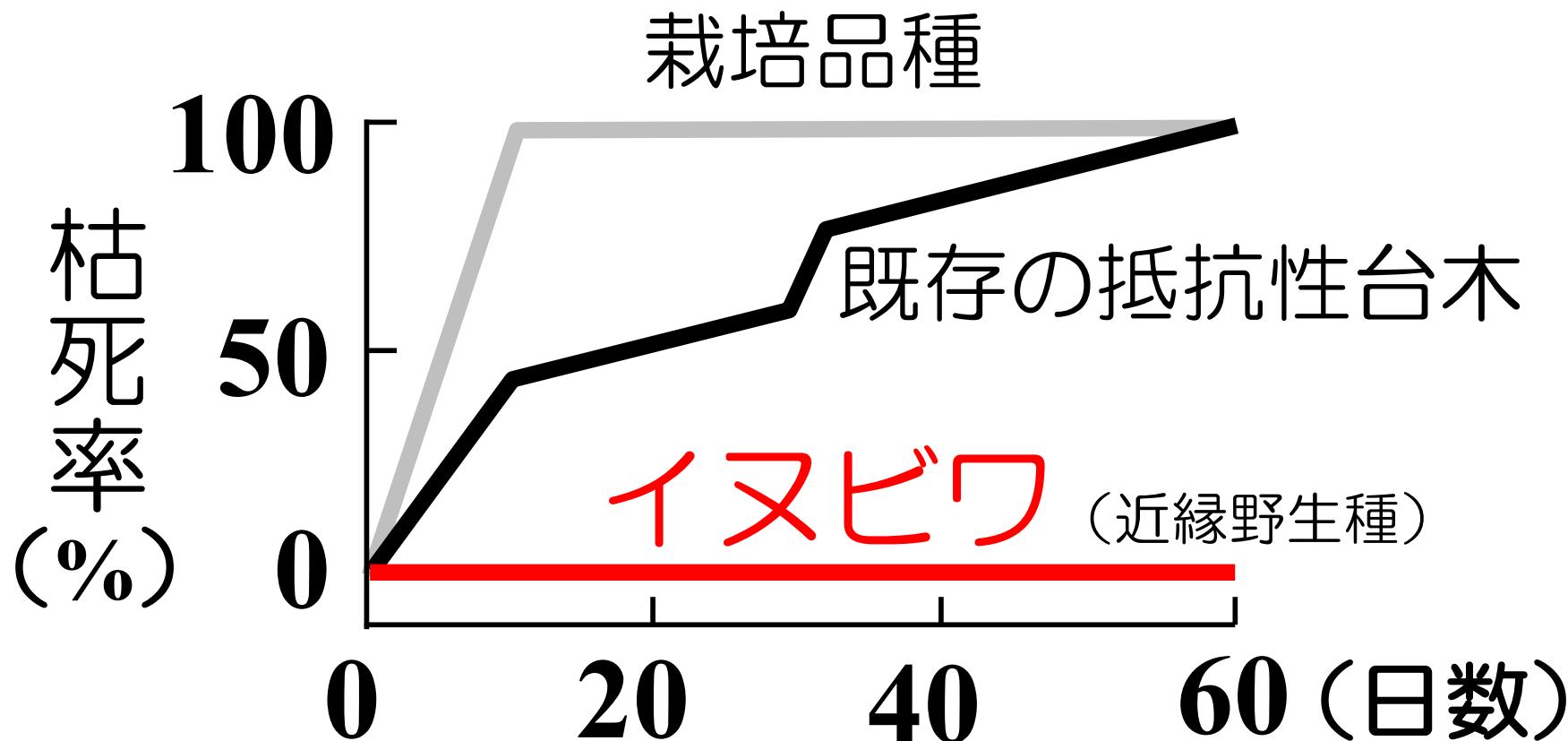
効 果

- ◆ 改植……………なし
- ◆ 農薬……………限定的
- ◆ 既存の抵抗性台木……………小
(セレストなど)

ニーズ

新たな抵抗性台木の開発

イヌビワの優れた抵抗性に着目



イヌビワの優れた抵抗性に着目

7/8



イヌビワにイチジクは接げない

事前の取組

世界初!! 種間交雑に成功

8/8



栽培品種

BC₁
(戻し交雑個体)

イヌビワ

【選抜基準】

- ◆ 生育は栽培品種と同等
- ◆ 株枯病抵抗性（イヌビワと同等）
- ◆ 栽培品種との接ぎ木親和性

抵抗性台木として利用できる見通し

野生種イヌビワとの種間交雑体を利用した イチジク株枯病抵抗性台木新品種の開発



イノベ事業(29029C)

実施期間:2017～2021年度

代表機関………広島県立総合技術研究所農業技術センター

共同研究機関……農研機構 果樹茶業研究部門

大阪府立環境農林水産総合研究所

福岡県農林業総合試験場

生産者・実需者……広島県果実農業協同組合連合会

研究管理機関……食品需給研究センター

有望 4 系統

NLBN7-2, NLBN7-5, BNBN7-3, BNBN7-5



NLBN7-5 を選定し ‘励広台1号’ と命名

「励広台1号」台イチジクの普及状況 12/8

接ぎ木苗木販売開始：2022年～

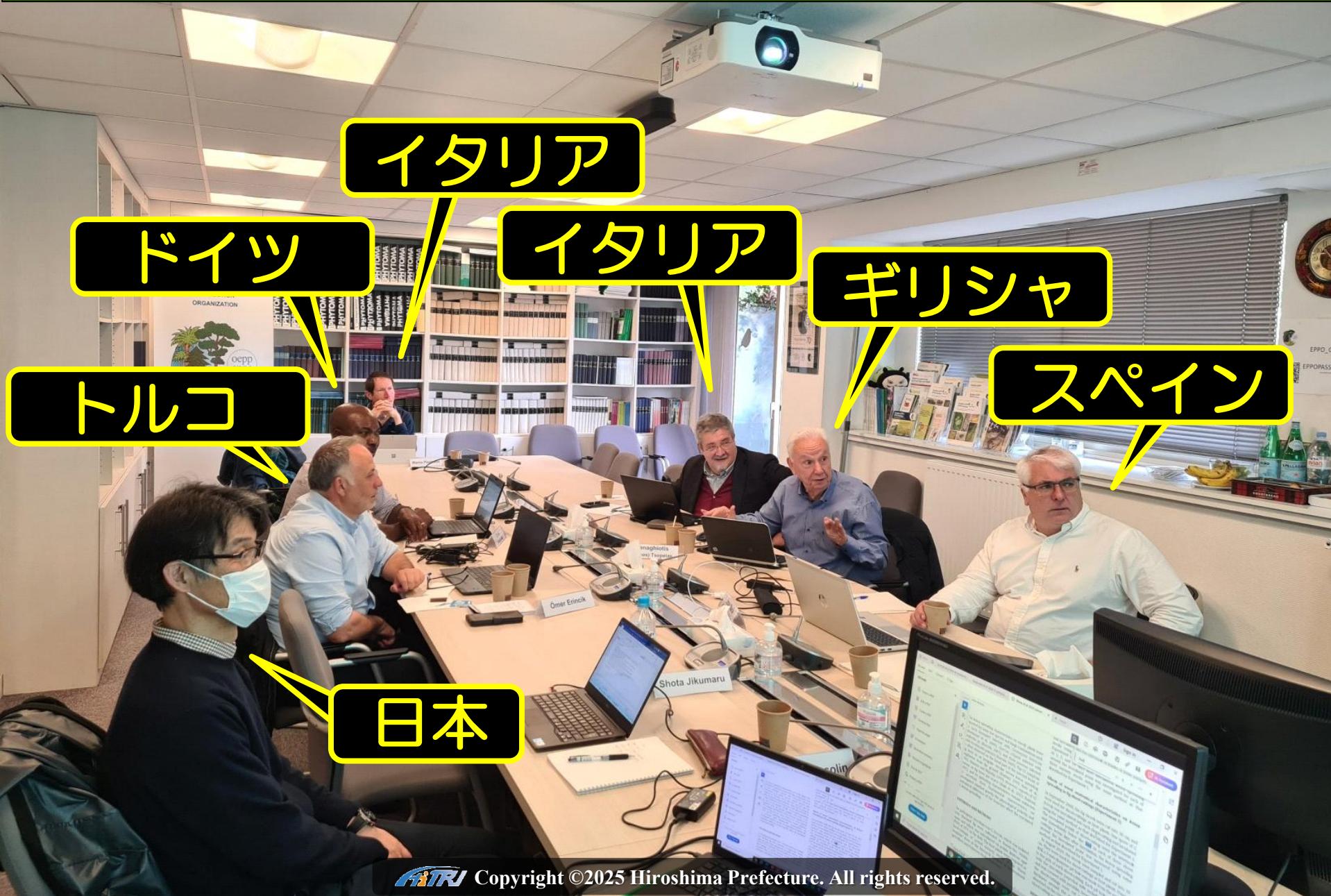
挿し木

主要産地を含む13府県へ導入



パリで開催された専門家会議の様子

13/8

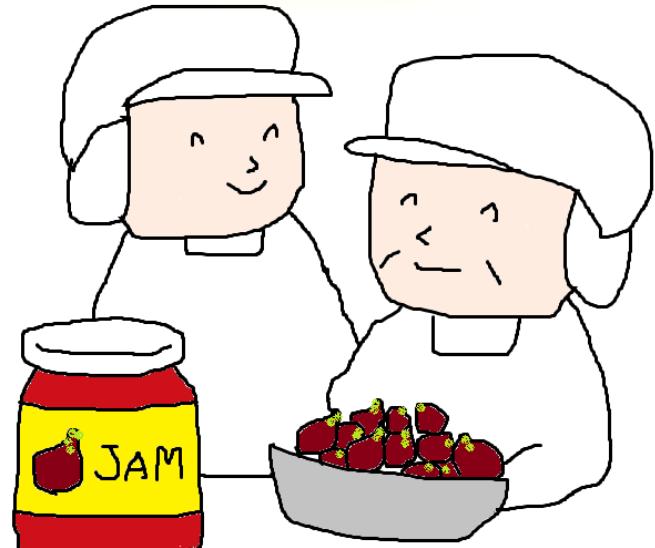
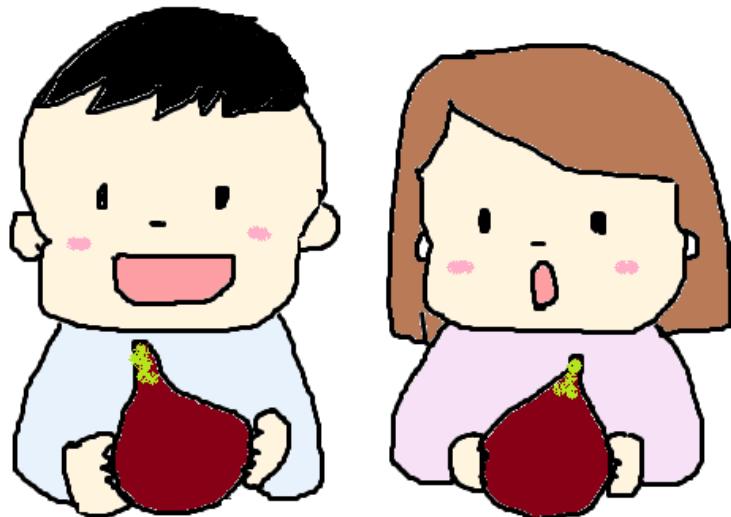


減農薬栽培

安全・安心な果実
を提供

株枯病の克服

地域特産物
イチジクの安定生産



生産者の収益増加・地域の活性化 !!

謝 辞

本研究の実施・立案にあたり、以下の皆様のご協力を得ました。ここに記して謝意を表します（敬称略、順不同）

◆コンソーシアムのメンバー

薬師寺 博, 山崎 安津, 西村 遼太郎, 磯部 武志, 上森 真広,
野方 仁, 姫野 修一, 池上 秀利, 江端 一成, 米澤 大真,
深澤 友香, 藤田 勝司, 星野 滋, 森田 剛成, 浜名 洋司,
須川 瞬, 白上 典彦

◆課題立案や推進会議等でお世話になった皆様

平林 利郎, 吉岡 博人, 中野 正明, 井上 幸次, 佐藤 龍太郎,
石倉 聰, 福島 啓吾, 川口 岳芳, 吉村 知子,
調査に協力いただいた当センターの職員

本研究の一部は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(JPJ007097)の支援を受けて行った。